病　院　だ よ り　　2018年9月号　第370号

昭和大学病院　検索

昭和大学病院附属東病院　検索

発　行　昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者　昭和大学病院長　板橋 家頭夫
編集責任者　広 報 委 員 長　中村 清吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
ＴＥＬ：03-3784-8000（代表）

90th SHOWA University 至誠一貫 Since 1928

就任のご挨拶

小児外科　診療科長　渡井（わたらい）　有（ゆう）

このたび土岐彰教授の後任として、小児外科診療科長を拝命いたしました渡井有です。初代岡松孝男教授、前任土岐彰教授に続き本年６月12 日付けにて昭和大学横浜市北部病院から異動し昭和大学病院小児外科に勤務させていただいております。

小児外科という科は比較的歴史が浅く、50数年前に外科の一分野として日本小児外科学会が創設され、初代昭和大学小児外科教授である岡松孝男教授が科を育まれ、私はその時期に入局させていただきました。岡松教授が教授をされていた頃の小児外科は小児科教授であった奥山和夫教授が日本の新生児医療を牽引しており、多くの新生児外科症例の手術が行われていた時期でした。

今では小児外科の領域にも小切開手術、低侵襲手術の概念が取り入れられ鏡視下手術が導入され、われわれも安全性を担保したうえで積極的に行っています。現在、横浜市北部病院、江東豊洲病院と協力し昭和大学病院小児外科の手術件数は年間約 600 件の手術を行っていますが、今後も安全性を担保したうえで腹腔鏡手術等の minimally invasive surgery（低侵襲手術※）をさらに進め手術件数の上でも、医療の質の上でも発展させていきたいと思います。

小児外科はこれから成長して成人になっていくお子さんを手術させていただく科で、その後数十年にわたり責任はわれわれ小児外科医が背負っていかなければなりません。

小児外科手術の基本は「余計なところは触らずに最小限の手術で終わらせる」ことで、お子さんは小さいときに思うように回復しなくとも成長が解決してくれる場合も多々あり、いまだに我々も驚かされることがあります。お子さんを手術するという意味では大きな責任は伴いますが同時にやりがいのある仕事で、外科志望の医学生や研修医の先生たちにも興味を持っていただきたいと思います。

小児外科はお子さんの体表から消化管・呼吸器を扱うため、これまでも多くの科の先生に助けていただき何とかやってくることができました。小児科、新生児科、外科、形成外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科等の小児外科診療にご協力いただいた先生方にこの場をお借りして深く御礼を申し上げるとともに、今後ともご指導いただければ幸いです。

札幌市出身　平成元年　昭和大学医学部卒業
渡井　有

低侵襲手術※
：患者さんの体に対する負担（侵襲）を減らした治療

就任のご挨拶　**集中治療科　診療科長　小谷（こたに）　透（とおる）**

就任のご挨拶

「継続は力なり」を座右の銘に、心折れる時も諦めず続けることを信念にしています。

このたび、集中治療科診療科長を拝命しました小谷です。麻酔科医としてキャリアを始めましたがすぐに集中治療に魅せられて以来一貫して集中治療室専従医として活動してまいりました。2016 年に麻酔科学講座大嶽教授に遠隔集中治療を一緒にやろうとお声がけいただき、当院に着任いたしました。高齢化社会が進む中で集中治療の果たす役割は極めて大きいと認識しております。限られた人員、医療費、医療スペースの中で、安心・安全な重症患者管理を提供すべく、診療・研究・教育に全力で当たる所存です。各診療科、多職種と強い連携を保ちながら集学的医療を展開していきます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

集中治療は単なる救命ではなく、患者を家族や地域社会の一員として元通り復帰させることを目標とする時代になりました。自らの診療成績を客観的に評価し医療の質向上を続ける姿勢が求められています。医学的根拠に基づく効果的な治療を Proactive（予防的）、Continuous（継続性）を合言葉に多職種チームですすめて行きます。

当 ICU は術後だけでなく内科を含めた全ての重症患者に開かれています。救急医学科・看護部とともに Rapid Response System※1 を導入し、一般病床の高リスク患者を早期に収容し集中監視します。

４月に運用開始された遠隔集中治療支援システム eICU※2 を用い救急 ICU、CCU、江東豊洲病院 ICU・ER の有効活用と集中治療部門での安全の確保に務めています。

今後、新たな ICU が開設される予定であり、スタッフ教育も進めていきます。

引き続き集中治療科へのご支援ご協力をお願いいたします。

【プロフィール】

１９８５年に慶應義塾大学医学部を卒業し、慶應義塾大学麻酔科学教室に入局。

１９８９年より慶應義塾大学病院一般集中治療室スタッフとして人工呼吸、ARDS の研究を始める。

２００１年から２００３年まで Duke University Medical Center 呼吸器内科客員研究員として ARDS（急性呼吸促拍症候群）の研究を続け、２００３年から東京女子医科大学麻酔科で集中治療専従医として勤務。

２０１６年に昭和大学医学部麻酔科学講座准教授に着任。

２０１８年４月から現職。

Rapid Response System※1：入院患者が重症化する前にその兆候をいち早く察知し、心停止になる前に適切な処置を行い、その予後を改善するシステム。

eICU※2： eICU とはコントロールセンターと複数病院の集中治療室（ICU）を VPN（仮想プライベートネットワーク）で接続することにより、それぞれの ICU ベッド患者の状態・データをコントロールセンターの医師や看護師がモニタリングする遠隔医療プログラム。

羽ばたけ期待の医療人　No.8「臨床検査技師」

今月は「　１年目　臨床検査技師　」のこの方をご紹介します。

【柴海　未菜さん】

臨床検査技師を目指した理由を教えてください。

幼少期は体が弱く通院が多かったことや、親類が医療職ということもあり、興味を持つようになったことがきっかけです。今まで自分自身が受けてきた検査を今度は検査する側になり医療の手助けが出来たらと考えたからです。また、患者さんと接する機会が多い検査もあることを知り、より繊細な職種である点にも魅力を感じました。

現在はどのような業務をしていますか。

生理機能検査室で主に心電図検査を担当しています。生理機能検査は、患者さんの状況に合わせた行動が求められるため緊張感があり、その分大きなやりがいも感じられます。様々な症例と向き合い臨床検査技師の立場から病気の診断、治療の助けとなれるよう日々努力をしています。

今後、どのような臨床検査技師を目指しますか。

医師の指示に従って検査をしていますが、直接検査をするのは私たちです。だからこそ患者さんに接し声を聴きながら、臨床検査という角度から医師とは違う視点で病気の早期発見に繋げられる可能性があると考えています。今後は、自分自身で判断する力を身に付け、付加価値の高い情報を提供できるよう絶えず勉強をし、技術や能力の向上を目指したいと思います。

部署 PR コーナー　No.9「栄養科」

・糖尿病と食事について

血糖値の高い方が増えてきています。平成 28 年の「国民健康・栄養調査」では、糖尿病有病者と糖尿病予備軍はそれぞれ 1,000 万人と推定され、有病者のうち治療を受けているのは 76.6%と報告されています。糖尿病であることに気づかないでいる人や、気がついていても治療をしていない人が少なくありません。

糖尿病は、自覚症状が少ないのでなかなか気づきにくいですが、治療をしないでいると全身に様々な障害（合併症）を引き起こします。

２ 型糖尿病は食生活の改善や運動不足の解消など生活習慣の改善によって予防できると言われています。

・糖尿病の食事ってどんな食事？

糖尿病の食事では食べてはいけない食べ物はありません。同様に、健康食品やサプリメントを含め食べたら良くなるという食べ物もありません。特定保健用食品（トクホ）なども予防の手段として期待できるものの、糖尿病が治るわけではありません。

糖尿病の食事療法は、①自分に合ったエネルギー量（食べる量）を、②バランス良く３食均等に、③ゆっくり食べることが基本です。特別なことをする必要はありません。

・栄養指導を受けたい場合はどうすればいいの？

栄養指導は予約制になっています。ご希望の場合は主治医に栄養指導希望の旨をお伝えください。

お悩み･疑問　**要チェック！「こんな症状ありませんか？」**

一度に長い距離を歩けない・・・
血流の低下が原因かも？

末梢動脈疾患(PAD)とは？

足の血管に動脈硬化が起こり、血管が細くなったり、詰まったりして、足に十分な血液が流れなくなることで発症する病気です。これにより歩行時に足が痺れる、痛い、冷たいなどの症状が現れます。

病気が進行すると、歩けなくなったり（間欠性跛行）、じっとしていても足が痛むようになったりします。壊死したりすることもあり、ひどい場合は足を手術しなければならなくなることもあります。

また、動脈硬化は全身的に進行しますので、足の動脈硬化は、心臓や脳の動脈硬化にもつながり、**狭心症や心筋梗塞、脳卒中などを引き起こすこともあります。**

PAD=peripheral arterial disease

痛いのは年のせい？

歩くと下肢が痛くなる原因にはいろいろあります。「年のせいだから」と自分で判断したり、他の病気だと勘違いして、PAD を悪化させてしまう患者さんもまれではありません。

足の痛みでとくに間違えやすいのは、脊柱管狭窄症や関節疾患、深部静脈血栓症などによる歩行中の痛みです。PAD による痛みには「ある程度の距離を歩くと筋肉の痛みのために歩けなくなる。しかし少し休むとまた歩ける」という特徴があります。

高血圧や糖尿病など、動脈硬化症になりやすい人にそのような症状が現れたときは医師にご相談ください。

PAD は気づきにくい！

PAD に至る血管の変化は気づかない間にゆっくりと進行していきます。初期の段階では、

- **冷えや、軽いしびれを感じる**
- **歩行時に足に痛みを感じてもしばらく休むと痛みがおさまる**（右記図）

など、なかなか異常に気づくことは難しいといわれています。そのため非常に症状が悪化してから PAD と診断されることも珍しくありません。病気が進み、日常生活を困難にするような状況を避けるためにも、できるだけ早期に見つけ、治療を始めることが必要です。

＜答えてくれたのはこの方＞

循環器内科：正司 真

気になる症状、当てはまる症状がありましたら、かかりつけ医の先生、当院通院中の方は担当医にお気軽にご相談ください。

開催案内　第 33 回昭和大学クリニカルセミナーの開催についてのお知らせ

第 33 回昭和大学クリニカルセミナーを下記の日時に開催いたしますので、是非ご参加下さい。

1．日　時　　平成 30 年 10 月 13 日（土）17：00～19：00

2．場　所　　シェラトン都ホテル東京　地下２階「醍醐」

3．次　第

1）『睡眠時無呼吸症候群の一般論と CPAP 治療のピットフォールについて』
呼吸器･ｱﾚﾙｷﾞｰ内科　講師　渡部 良雄

2）『「睡眠」に視点をあてた診療について』　循環器内科　講師　安達 太郎

3）『てんかん病変可視化技術と安全確実なてんかん外科』脳神経外科　助教　佐藤 洋輔

4）『熱性けいれんとこどものてんかん診療の最先端』　小児科　准教授　加藤 光広

5）『放射線治療の進歩とがん診療における役割』　放射線治療科　准教授　伊藤 芳紀

6）『「食道外科」診療科新設にあたって』　食道外科　教授　村上 雅彦

※<u>このセミナーは**医療従事者対象**となりますので、一般の方はご参加できません。</u>

参加をご希望の医療機関は、医療連携室（03-3784-8400）までご連絡下さい。

病床機能強化　「無菌室（BCR）」を増床しました

「無菌室」での治療が必要な患者さんは「昭和大学病院」へ

平成３０年８月より新たに個室３部屋と２人部屋が入院棟１０階病棟に開設され、当院での無菌室は、12 床（個室（完全無菌）が６床、２人部屋（準無菌）が６床）となりました。無菌室では主に急性白血病や悪性リンパ腫などの造血器腫瘍や再生不良性貧血などの造血不全症に対し同種造血幹細胞移植がおこなわれます。また、自家末梢血幹細胞移植や強力な化学療法などにより骨髄抑制が強くなると予想される場合にも必要に応じて使用されます。

病棟スタッフ一同、また新たな気持ちで患者さんを迎え、より充実した患者ファーストの診療を進めていきたいと思います。

（BCR：biological clean room）

開催報告　旗ヶ岡盆踊り大会が開催されました

７月２７日（金）に昭和大学旗の台キャンパスにて昭和大学関係者と地域の皆様との交流を目的とした、**盆踊り大会**が開催されました。

子どもからご年配の方までヤグラを囲んで盆踊りに参加しました。また、たくさんの方々にお越しいただき、屋台に行例が並ぶ様子も見受けられました。

２日目は台風の影響であえなく中止となってしまいましたが、今年も昭和大学関係者と地域の方々との交流をはぐくむことができました。

運営スタッフは昭和大学特製のＴシャツを着用し、より一体感を高めました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

開催報告　小児医療センター夏祭りが開催されました

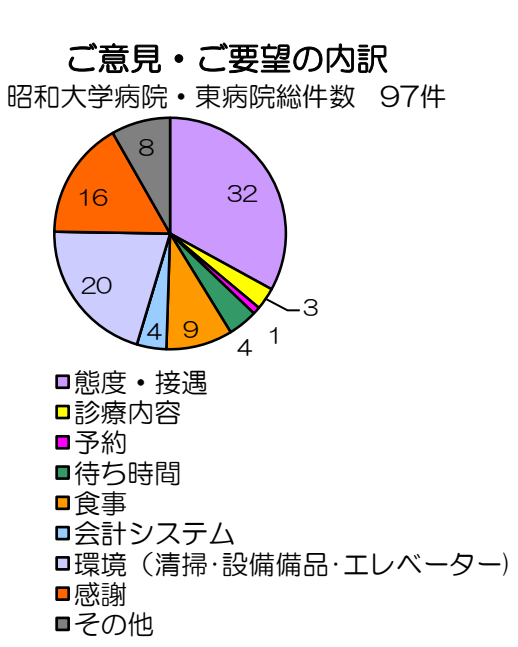
８月３日（金）に小児医療センター（入院棟３階・４階）にて夏祭りを開催しました。

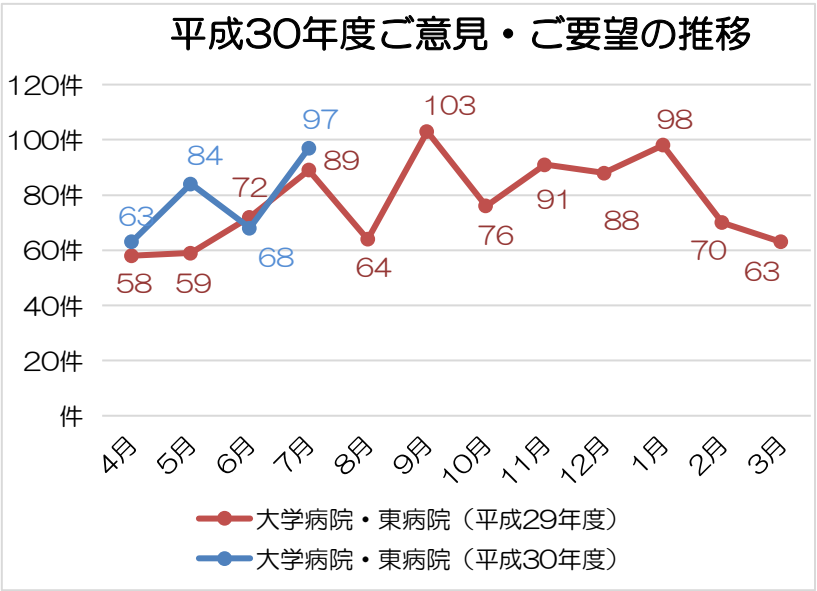
当日、３階にはスイカの風鈴づくりや玉入れ、４階にはコイン落としや射的、ヨーヨーすくいが用意され、たくさんの子どもたちが参加しました。コイン落としや射的では参加した子どもたち同士で高得点を取る方法を教えあい、夏祭りを楽しんでいる様子を見ることができました。

【当日の様子】

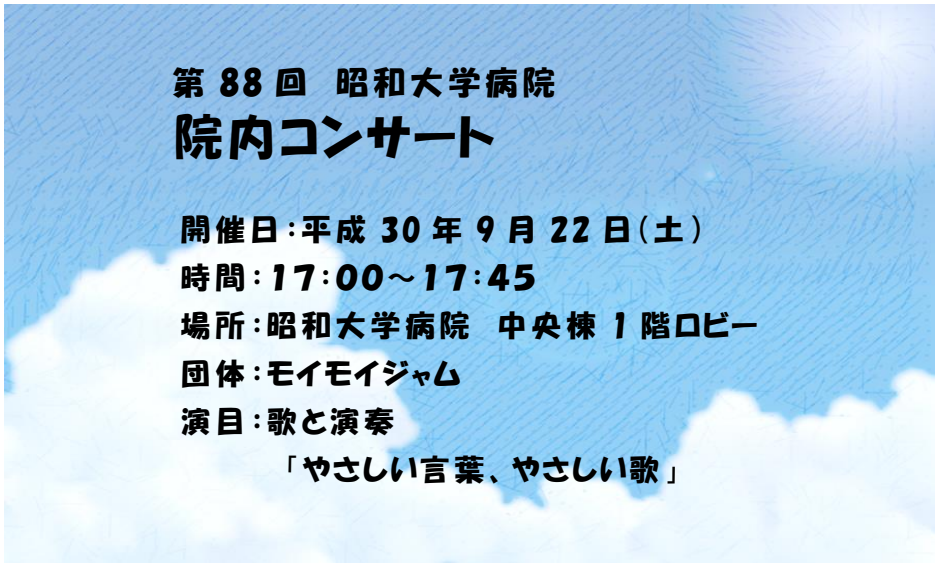
患者さんのご意見・ご要望

ご意見･ご要望	回答	回答部署
担当医から病院の方針で診療の２回に１回は他の病院で診てもらってくださいと言われた。どうしてですか？	貴重なご意見ありがとうございます。 当院は「かかりつけ医」の先生の紹介があった患者さんや、重症患者さんの急性医療を行う病院です。 当院の診療後、症状が安定してきた患者さんについては「かかりつけ医」の先生のところに戻っていただき、治療を続けていただく事になります。また病状が悪くなったとき、入院治療が必要になったときは当院で診療に当たらせていただきますのでご安心ください。 当院の専門医師と「かかりつけ医」の先生が患者さんの診療に関する情報を共有することにより、いつでも安心して帰っていただける体制を整えております。 ご理解の程よろしくお願い致します。	医療課
入院患者をCTや外来に呼び出してから３０分以上待たせる理由が分かりません。入院をしている他の方では最長２時間待たされた人がいました。 中には安静が必要な人もいますし、体調の良くない人もいます。	この度は、大変不快な思いをさせてしまい申し訳ございません。 入院患者さんは検査室の混雑具合を考慮し、病棟に案内の連絡をしています。検査室に到着した入院患者さんは優先的に検査室に案内しておりますが、前の検査が延長した場合、救急患者や病状の悪い患者さんの場合、手術直後に検査を行う患者さんがいるときは順番が前後することがあります。 CT 検査室では看護師や診療放射線技師、受付者が待合室の状況や患者さんの様子に気を配りながら予約時間と受付時間をみて検査を進めています。検査待機室で長時間待っている場合や気分が悪くなったときは検査室スタッフに声をかけていただきますようお願いします。 今後も安心して検査を受けていただくようスタッフ全員で努力いたします。	医療課

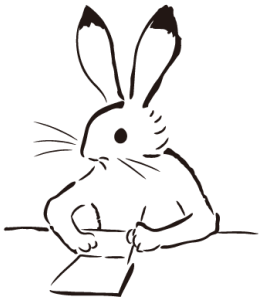




イベント情報　院内コンサートについて



編集後記　小児循環器・成人先天性心疾患センター　富田（とみた）　英（ひでし）



例年に無い酷暑もこの号が発行される頃には一山越えることを期待しつつ、この原稿を書いています。お正月早々に昭和大学病院の一員となり、４月号でご挨拶させていただいたのが昨日のようです。

今年度から編集委員会に加えていただきましたが、まだまだ新しいアイデアを提案できるところまで到達できておりません。病院だよりが患者さんとスタッフと繋ぐ横糸に、明日への診療に繋がる縦糸になる紙面構成を考えたいと思っております。皆様からのご提案をお待ちします。

昭和大学病院･附属東病院の理念

- 患者さん本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

ご意見・ご要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員：　飯田 真由、磯飛 雄一、稲垣 克記、大嶽 浩司、五藤　哲、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、鷲見 賢司、戸塚 るり、富田 英、中村 綾子、中村 清吾、平野 勉、吉田 仁、渡邊 聡（50 音順）